



# 設置とセットアップ

## Install and maintain

NetApp  
December 18, 2024

# 目次

設置とセットアップ	1
設置とセットアップのワークフロー- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50	1
設置要件と考慮事項- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50	2
設置の準備- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50	3
ハードウェアの設置- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50	5
ハードウェアのケーブル接続- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50	6
ストレージシステムの電源をオンにします (AFF A20、AFF A30、およびAFF A50)。	18
ストレージシステムのセットアップと設定の完了- AFF A20、AFF A30、AFF A50	21

# 設置とセットアップ

## 設置とセットアップのワークフロー- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムを設置してセットアップするには、設置要件と考慮事項を確認し、設置場所を準備し、ハードウェアコンポーネントを設置してケーブル接続し、ストレージシステムの電源をオンにし、ONTAPクラスタをセットアップする必要があります。

1

### "インストールの要件と考慮事項を確認する"

ストレージシステムをインストールする前に、ストレージシステムがインストール要件を満たしていること、インストールに関する考慮事項を確認しておく必要があります。

2

### "設置を準備"

設置の準備として、設置場所を準備し、環境要件と電力要件を確認し、十分なラックスペースがあることを確認する必要があります。その後、機器を開梱して内容を納品書と比較し、ハードウェアを登録してサポートを利用できます。

3

### "ハードウェアを設置"

ハードウェアを設置するには、ストレージシステムとシェルフ用のレールキットを設置し、ストレージシステムとシェルフをキャビネットまたはTelcoラックに設置して固定します。

4

### "ハードウェアのケーブル接続"

ハードウェアをケーブル接続するには、コントローラをネットワークに接続してからシェルフに接続します。

5

### "ストレージ・システムの電源をオンにする"

ストレージシステムの電源をオンにするには、各シェルフの電源をオンにし、必要に応じて一意のシェルフIDを割り当ててから、コントローラの電源をオンにします。

6

### "ストレージシステムのセットアップの完了"

ストレージシステムのセットアップを完了するには、ブラウザでコントローラのIPアドレスを指定してONTAPシステムマネージャにアクセスします。セットアップウィザードを使用して、ストレージシステムのクラスタを設定できます。

# 設置要件と考慮事項- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムの要件と考慮事項を確認します。

## 設置に必要な機器

ストレージシステムを設置するには、次の機器および工具が必要です。

- ストレージシステムを設定するためのWebブラウザへのアクセス
- 静電放電 (ESD) ストラップ
- 懐中電灯
- USB /シリアル接続を備えたラップトップまたはコンソール
- NS224ストレージシェルフIDを設定するためのペーパークリップまたはボールペン
- No.2 プラスドライバー

## 吊り上げ時の注意事項

ストレージシステムやシェルフは重い。これらのアイテムを持ち上げたり移動したりするときは、注意してください。

### ストレージシステムノオモミ

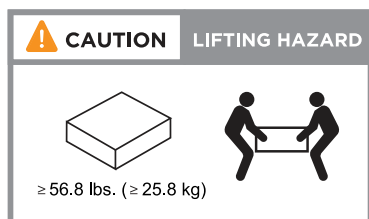
ストレージシステムを移動または持ち上げるときは、必要な予防措置を講じてください。

A20、A30、またはA50ストレージシステムの重量は最大27.9 kg (61.5ポンド) です。ストレージ・システムを持ち上げるには、2人で作業するか、油圧リフトを使用します。

### シェルフの重量

シェルフを移動または持ち上げるときは、必要な予防措置を講じてください。

NSM100Bモジュールを搭載したNS224シェルフの重量は最大25.8kg (56.8ポンド) です。シェルフを持ち上げるには、2人で作業するか、油圧リフトを使用します。シェルフの重量がバランスを崩さないように、すべてのコンポーネント (前面と背面の両方) をシェルフに保管してください。



## 関連情報

- ["安全に関する情報と規制に関する通知"](#)

## 次の手順

ストレージシステムのインストール要件と考慮事項を確認したら、を実行し["設置の準備"](#)ます。

## 設置の準備- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムを設置する準備をします。設置場所を準備し、開梱して梱包内容を納品書と比較し、ストレージシステムを登録してサポートを利用します。

### ステップ1：サイトを準備する

ストレージシステムを設置するには、設置場所および使用するキャビネットまたはラックが構成の仕様を満たしていることを確認してください。

#### 手順

1. を使用して ["NetApp Hardware Universe の略"](#)、サイトがストレージシステムの環境要件と電力要件を満たしていることを確認します。
2. ストレージシステム、シェルフ、およびスイッチ用のキャビネットまたはラックスペースが十分にあることを確認します。
  - ストレージシステムの場合は2U
  - NS224ストレージシェルフごとに2U
  - ほとんどのスイッチで1U
3. 必要なネットワークスイッチを取り付けます。

インストール手順および互換性情報については、を参照してください ["スイッチのドキュメント"](#) ["NetApp Hardware Universe の略"](#)。

### 手順2：箱を開封する

ストレージシステムに使用するキャビネットやラックが必要な仕様を満たしていることを確認したら、すべての箱を開封し、内容を納品書の項目と比較します。

#### 手順

1. すべての箱を慎重に開き、内容を整理された方法でレイアウトします。
2. 開梱した内容を、納品書のリストと比較します。



梱包箱の側面にあるQRコードをスキャンすると、梱包リストを取得できます。

次の項目は、ボックスに表示される内容の一部です。

箱の中のすべてが納品書のリストと一致していることを確認してください。不一致がある場合は、それらをメモして、さらに対処してください。

* ハードウェア *	ケーブル	
------------	------	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>• ベゼル</li> <li>• ストレージシステム</li> <li>• 取扱説明書付きのレールキット（オプション）</li> <li>• ストレージシェルフ（追加のストレージを注文した場合）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理イーサネットケーブル（RJ-45ケーブル）</li> <li>• ネットワークケーブル</li> <li>• 電源コード</li> <li>• ストレージケーブル（追加のストレージを注文した場合）</li> <li>• USB-Cシリアルコンソールケーブル</li> </ul>	
---	--	--

### 手順3：ストレージシステムを登録する

設置場所がストレージシステムの仕様要件を満たしていることを確認し、発注したパーツがすべて揃っていることを確認したら、ストレージシステムを登録する必要があります。

#### 手順

1. 取り付けている各コントローラのシステムシリアル番号（SSN）を確認します。シリアル番号は次の場所にあります。
2. シリアル番号は次の場所にあります。
  - 納品書に
  - 確認メール
  - 各コントローラ



3. に進みます ["ネットアップサポートサイト"](#)。
4. ストレージシステムの登録が必要かどうかを判断します。

ユーザのタイプとアクセス方法	実行する手順
NetAppの既存のお客様	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. ユーザ名とパスワードを使用してサインインします。</li> <li>b. [システム]&gt;*[マイシステム]*を選択します。</li> <li>c. 新しいシリアル番号が表示されていることを確認します。</li> <li>d. そうでない場合は、NetAppの新規のお客様向けの手順に従います。</li> </ol>

ユーザのタイプとアクセス方法	実行する手順
NetAppの新規のお客様	<p>a. [今すぐ登録] をクリックしてアカウントを作成します。</p> <p>b. Systems &gt; Register Systems *を選択します。</p> <p>c. ストレージシステムのシリアル番号と要求された詳細を入力します。</p> <p>登録が承認されると、必要なソフトウェアをダウンロードできます。承認プロセスには最大 24 時間かかる場合があります。</p>

#### 次の手順

ストレージシステムの設置の準備が完了したら、次"[ストレージシステム用のハードウェアの設置](#)"の作業を行います。

## ハードウェアの設置- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムを設置する準備ができたなら、ストレージシステムのハードウェアを設置します。まず、レールキットを取り付けます。次に、ストレージシステムをキャビネットまたはTelcoラックに設置して固定します。

ストレージ・システムがキャビネットに収納されていた場合は、この手順を省略してください。

#### 作業を開始する前に

- レールキットに手順書が同梱されていることを確認します。
- ストレージシステムとシェルフの重量に関連する安全上の問題に注意してください。
- ストレージ・システム内の通気は'ベゼルまたはエンド・キャップが取り付けられている前面から入り'ポートが取り付けられている背面から排出されます

#### 手順

1. キットに付属の手順書に従って、ストレージシステムとシェルフのレールキットを必要に応じて設置します。
2. キャビネットまたはTelcoラックにストレージシステムを設置して固定します。
  - a. キャビネットまたはTelcoラックの中央にあるレールにストレージシステムを配置し、ストレージシステムを下から支えて所定の位置にスライドさせます。
  - b. 付属の取り付けネジを使用して、ストレージシステムをキャビネットまたはTelcoラックに固定します。
3. ベゼルのストレージシステムの前面に取り付けます。
4. 必要に応じてシェルフを設置して固定します。
  - a. シェルフの背面をレールに合わせ、シェルフを下から支えてキャビネットまたはTelcoラックに挿入します。

複数のシェルフを設置する場合は、最初のシェルフをコントローラの真上に配置します。2台目のシェルフをコントローラの真下に置きます。シェルフを追加する場合は、このパターンを繰り返します。

b. 付属の取り付けネジを使用して、シェルフをキャビネットまたはTelcoラックに固定します。

次の手順

ストレージシステムのハードウェアの設置が完了したら、次の作業"[ハードウェアのケーブル接続](#)"を行います。

## ハードウェアのケーブル接続- AFF A20、AFF A30、およびAFF A50

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムハードウェアを設置したら、コントローラをネットワークおよびシェルフにケーブル接続します。

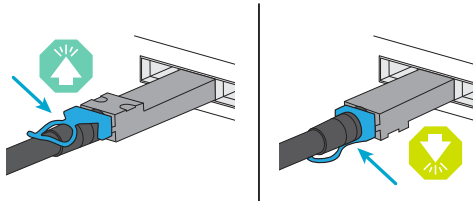
作業を開始する前に

ストレージシステムをネットワークスイッチに接続する方法については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

このタスクについて

- 一般的な構成については、クラスタ/HAおよびホストネットワークのケーブル接続手順を参照してください。具体的なケーブル接続は、ご使用のストレージシステム用に注文したコンポーネントによって異なることに注意してください。設定およびスロットプライオリティの詳細については、["NetApp Hardware Universe の略"](#)を参照してください。
- ケーブル配線図には、ポートにコネクタを挿入する際のケーブルコネクタプルタブの正しい方向（上または下）を示す矢印アイコンがあります。

コネクタを挿入すると、カチッという音がしてコネクタが所定の位置に収まるはずですが、カチッと音がしない場合は、コネクタを取り外し、裏返してもう一度試してください。



- 光スイッチにケーブル接続する場合は、光トランシーバをコントローラポートに挿入してから、スイッチポートにケーブル接続します。

### 手順1：クラスタ/HAをケーブル接続する

コントローラをONTAPクラスタにケーブル接続します。この手順は、ストレージシステムのモデルおよびI/Oモジュールの構成によって異なります。



## スイッチレスクラスタのケーブル接続

### 2ポートの40 / 100GbE I/Oモジュールを2つ搭載したAFF A30またはAFF A50

コントローラを相互にケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

#### 手順

1. クラスタ/ HAインターコネクト接続をケーブル接続します。



クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポート（スロット2と4のI/Oモジュール）を共有します。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe2aをコントローラBのポートe2aにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4aをコントローラBのポートe4aにケーブル接続します。

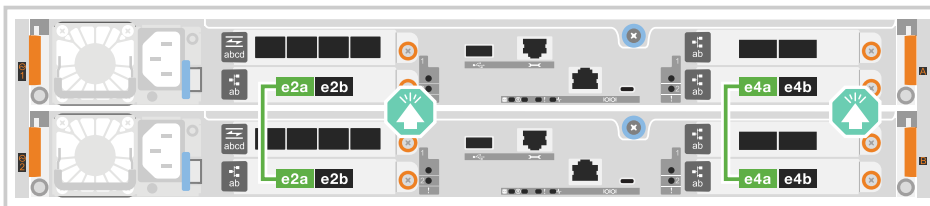


I/Oモジュールのポートe2bおよびe4bは未使用で、ホストのネットワーク接続に使用できます。

- 100GbEクラスタ/ HAインターコネクトケーブル\*



Controller A



Controller B

## AFF A30またはAFF A50 (2ポート40 / 100GbE I/Oモジュール×1)

コントローラを相互にケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

### 手順

1. クラスタ/ HAインターコネクト接続をケーブル接続します。



クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポートを共有します (スロット4のI/Oモジュール上)。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをコントローラBのポートe4aにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをコントローラBのポートe4bにケーブル接続します。

- 100GbEクラスタ/ HAインターコネクトケーブル\*



Controller A



Controller B

## AFF A20 : 2ポート10 / 25GbE I/Oモジュール×1

コントローラを相互にケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

### 手順

1. クラスタ/ HAインターコネクト接続をケーブル接続します。



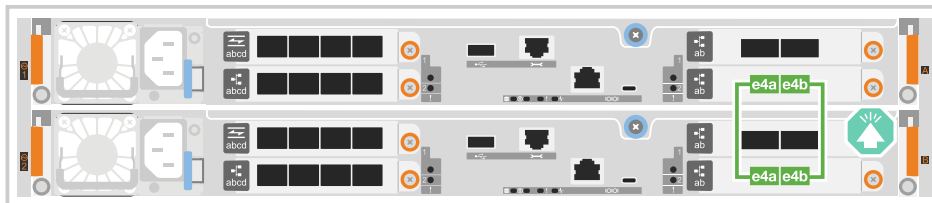
クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポートを共有します（スロット4のI/Oモジュール上）。ポートは10 / 25GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをコントローラBのポートe4aにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをコントローラBのポートe4bにケーブル接続します。

- 25GbEクラスタ/ HAインターコネクトケーブル\*



Controller A



Controller B

### スイッチクラスタのケーブル接続

## 2ポートの40 / 100GbE I/Oモジュールを2つ搭載したAFF A30またはAFF A50

コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

手順

1. クラスタ/ HAインターコネクト接続をケーブル接続します。



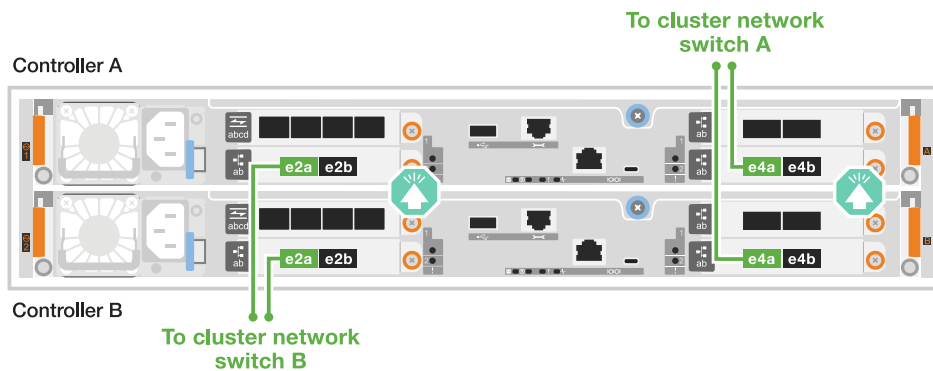
クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポート（スロット2と4のI/Oモジュール）を共有します。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe2aをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。
- c. コントローラBのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- d. コントローラBのポートe2aをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。



I/Oモジュールのポートe2bおよびe4bは未使用で、ホストのネットワーク接続に使用できます。

- 40 / 100GbEクラスタ/ HAインターコネクトケーブル\*



## AFF A30またはAFF A50 (2ポート40 / 100GbE I/Oモジュール×1)

コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

### 手順

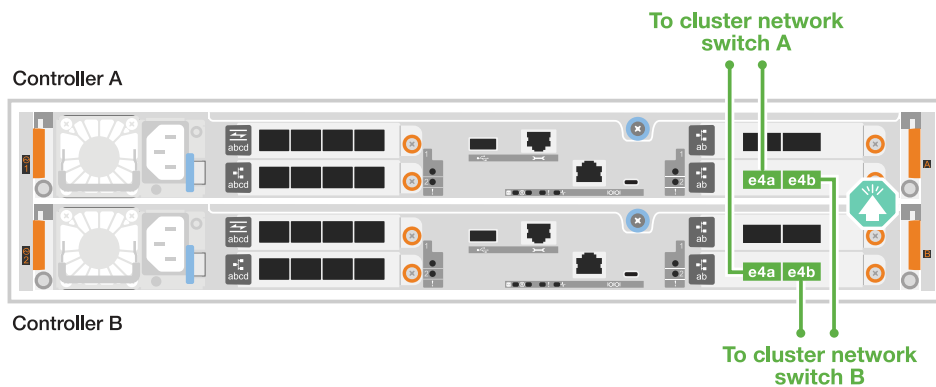
1. コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続します。



クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポートを共有します（スロット4のI/Oモジュール上）。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。
- c. コントローラBのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- d. コントローラBのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。

- 40 / 100GbE クラスタ/ HA インターコネクトケーブル\*



## AFF A20 : 2ポート10 / 25GbE I/Oモジュール×1

コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続して、ONTAPクラスタ接続を作成します。

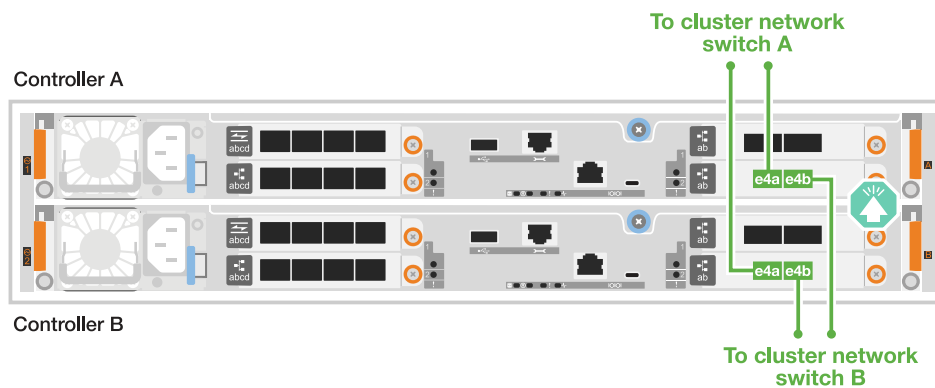
1. コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続します。



クラスタインターコネクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポートを共有します（スロット4のI/Oモジュール上）。ポートは10 / 25GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。
- c. コントローラBのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- d. コントローラBのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。

- 10/25GbEクラスタ/ HAインターコネクトケーブル\*



## 手順2：ホストネットワーク接続をケーブル接続する

コントローラをホストネットワークにケーブル接続します。

この手順は、ストレージシステムのモデルおよびI/Oモジュールの構成によって異なります。

## 2ポートの40 / 100GbE I/Oモジュールを2つ搭載したAFF A30またはAFF A50

### 手順

1. ホストネットワーク接続をケーブル接続します。

次に、オプションのホストネットワークケーブル接続の例を示します。必要に応じて、ご使用のストレージ・システム構成に対応するを参照してください"[NetApp Hardware Universe の略](#)"。

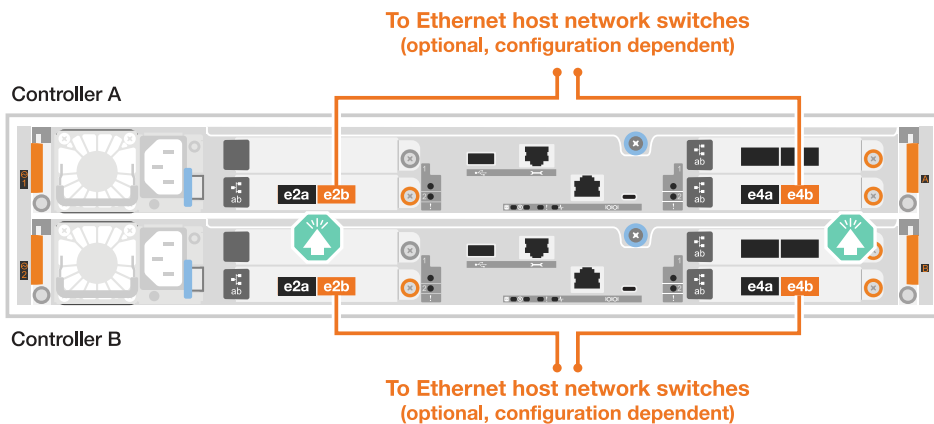
- a. オプション：コントローラをホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポートe2bおよびe4bをイーサネットホストネットワークスイッチにケーブル接続します。



スロット2および4のI/Oモジュールのポートは40 / 100GbE（ホスト接続は40 / 100GbE）です。

- 40/100GbEケーブル\*

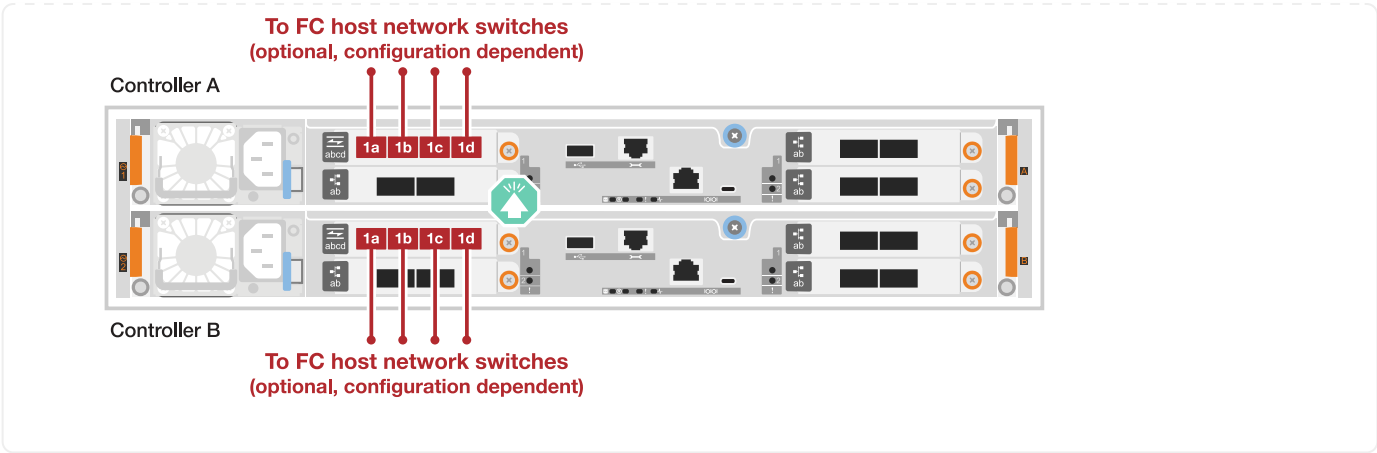


- b. オプション：コントローラをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポート1a、1b、1c、および1dをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

- 64 Gb/秒FCケーブル\*







## AFF A30またはAFF A50 (2ポート10 / 25GbE I/Oモジュール×1)

### 手順

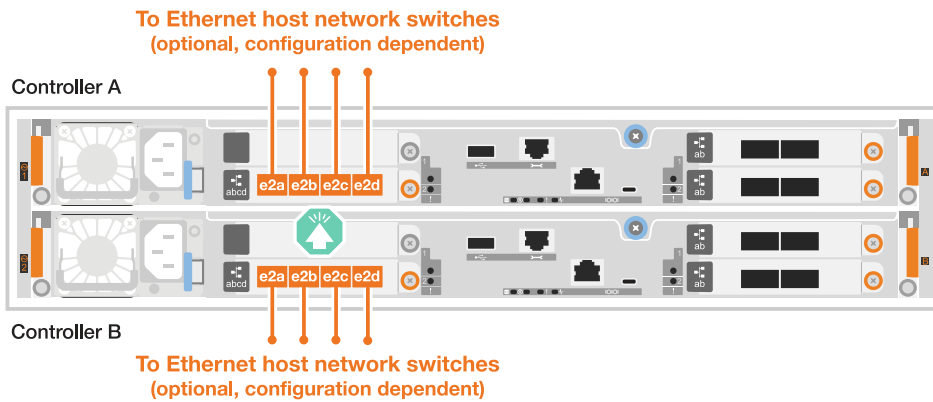
1. ホストネットワーク接続をケーブル接続します。

次に、オプションのホストネットワークケーブル接続の例を示します。必要に応じて、ご使用のストレージ・システム構成に対応するを参照してください"[NetApp Hardware Universe の略](#)"。

- a. オプション：コントローラをホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポートe2a、e2b、e2c、e2dをイーサネットホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

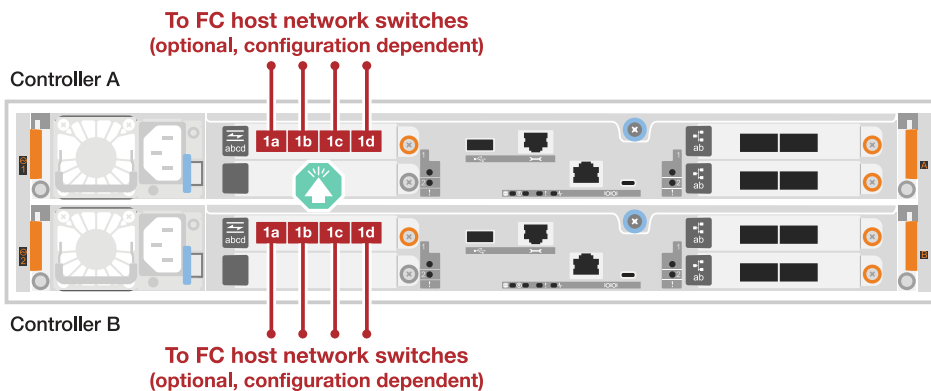
- 10/25GbEケーブル\*



- b. オプション：コントローラをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポート1a、1b、1c、および1dをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

- 64 Gb/秒FCケーブル\*



手順

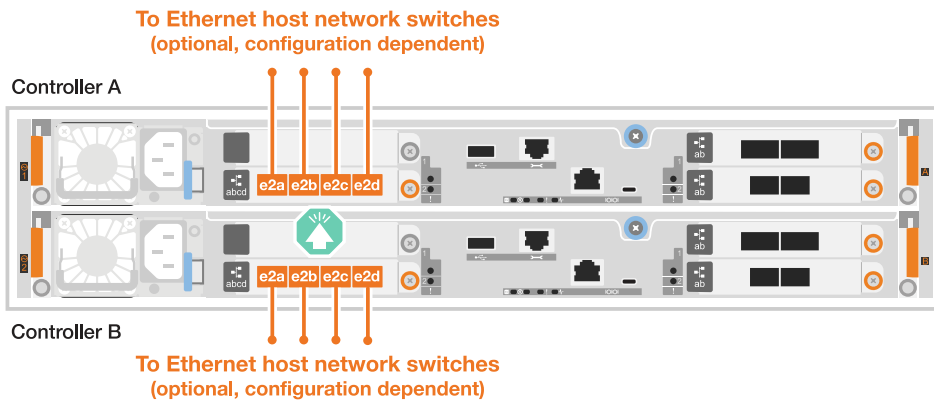
1. ホストネットワーク接続をケーブル接続します。

次に、オプションのホストネットワークケーブル接続の例を示します。必要に応じて、ご使用のストレージ・システム構成に対応するを参照してください"[NetApp Hardware Universe の略](#)"。

- a. オプション：コントローラをホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポートe2a、e2b、e2c、e2dをイーサネットホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

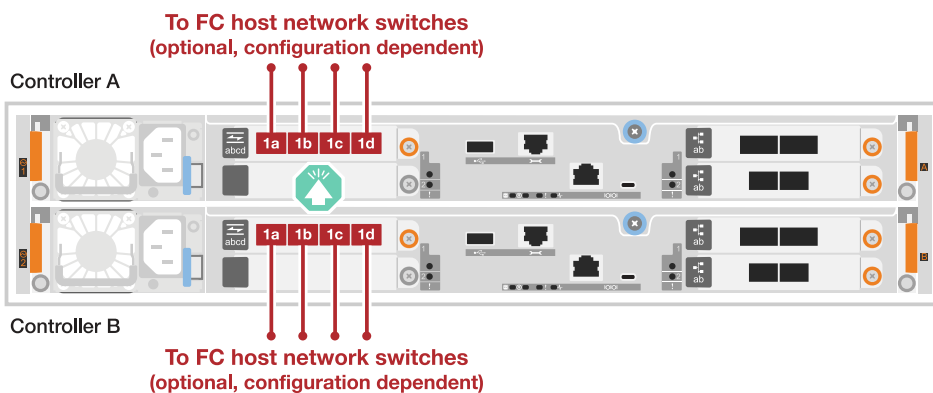
- 10/25GbEケーブル\*



- b. オプション：コントローラをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

各コントローラで、ポート1a、1b、1c、および1dをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

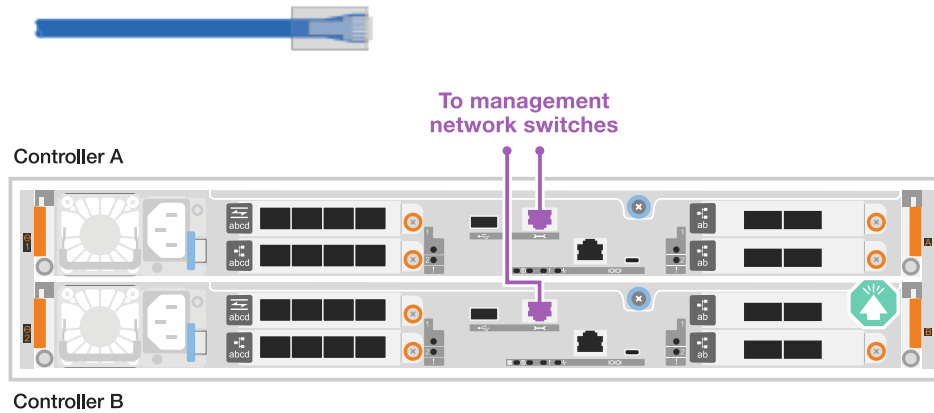
- 64 Gb/秒FCケーブル\*



### 手順3：管理ネットワークをケーブル接続する

コントローラを管理ネットワークにケーブル接続します。

1. 各コントローラの管理（レンチマーク）ポートを管理ネットワークスイッチにケーブル接続します。
  - 1000BASE-T RJ-45ケーブル\*



まだ電源コードを接続しないでください。

### 手順4：シェルフをケーブル接続する

この手順では、1台のNS224シェルフにコントローラをケーブル接続する方法を示します。

このタスクについて

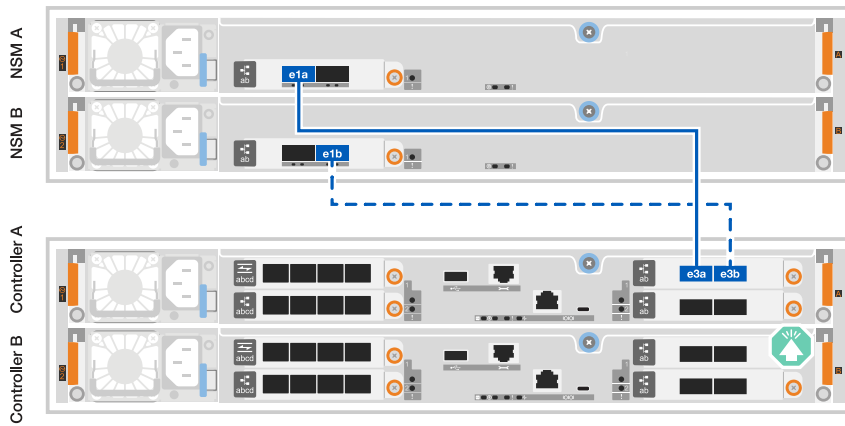
- ストレージシステムでサポートされるシェルフの最大数、および光ファイバやスイッチ接続などのすべてのケーブル接続オプションについては、を参照してください"[NetApp Hardware Universe の略](#)".
- ストレージシステムに付属のストレージケーブルを使用して、各コントローラをNS224シェルフの各NSM100Bモジュールにケーブル接続します。次のタイプのケーブルを使用できます。
- 100GbE QSFP28銅線ケーブル\*



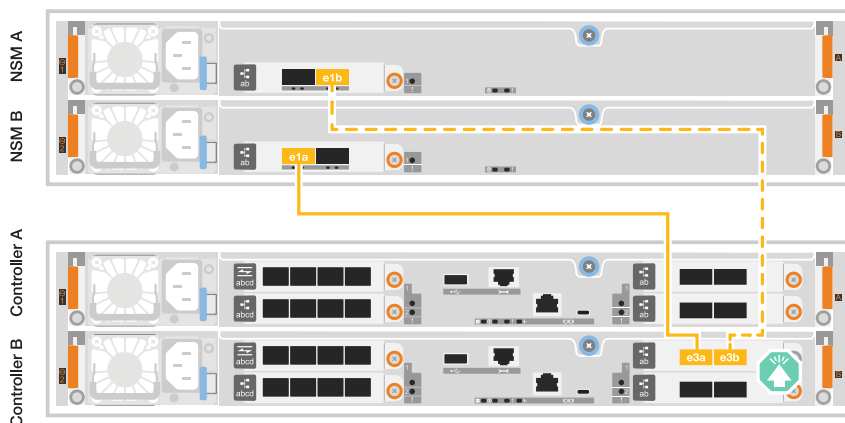
- 図は、コントローラAのケーブル配線を青で示し、コントローラBのケーブル配線を黄色で示しています。

手順

1. コントローラ A をシェルフにケーブル接続します。
  - a. コントローラAのポートe3aをNSM Aのポートe1aにケーブル接続します。
  - b. コントローラAのポートe3bをNSM Bのポートe1bにケーブル接続します。



2. コントローラ B をシェルフにケーブル接続します。
  - a. コントローラBのポートe3aをNSM Bのポートe1aにケーブル接続します。
  - b. コントローラBのポートe3bをNSM Aのポートe1bにケーブル接続します。



次の手順

ストレージシステム用のハードウェアのケーブル接続が完了したら、"[ストレージ・システムの電源をオンにする](#)"

## ストレージシステムの電源をオンにします（AFF A20、AFF A30、およびAFF A50）。

AFF A20、AFF A30、またはAFF A50ストレージシステムのネットワークおよびシェルフにコントローラをケーブル接続したら、シェルフとコントローラの電源をオンにします。

### 手順1：シェルフの電源をオンにしてシェルフIDを割り当てる

各シェルフは一意的シェルフIDで識別されます。このIDにより、ストレージシステムの設定内でシェルフが区別されます。

このタスクについて

- 有効なシェルフIDは01~99です。

コントローラに内蔵シェルフ（ストレージ）が統合されている場合は、固定シェルフID 00が割り当てられます。

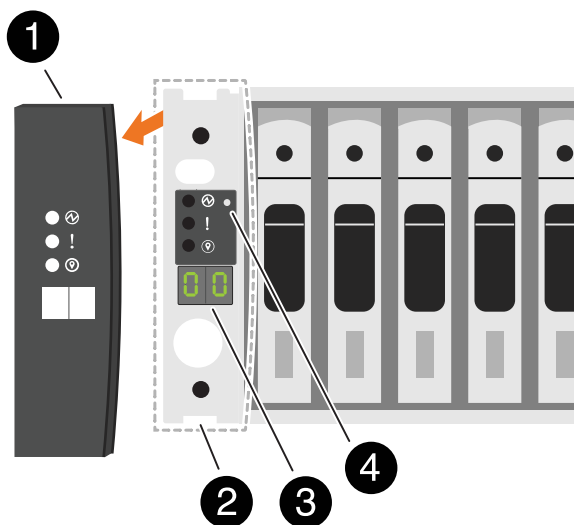
- シェルフIDを有効にするには、シェルフの電源を再投入する必要があります（両方の電源コードを取り外し、しばらく待ってから再度接続します）。

#### 手順

- シェルフの電源をオンにするには、まず電源コードをシェルフに接続し、電源コード固定クリップで所定の位置に固定してから、電源コードを別々の回路の電源に接続します。

シェルフを電源に接続すると、シェルフの電源が自動的にオンになり、ブートします。

- 前面プレートの後ろにあるシェルフIDボタンにアクセスするには、左側のエンドキャップを取り外します。



①	シェルフのエンドキャップ
②	シェルフ前面プレート
③	シェルフID番号
④	シェルフIDボタン

- シェルフ ID の最初の番号を変更します。
  - ペーパークリップまたは先端の細いボールペンのまっすぐになった端を小さな穴に差し込み、シェルフIDボタンを押します。
  - デジタルディスプレイの1桁目の数字が点滅するまでシェルフIDボタンを押し続け、点滅したら放します。

点滅するまでに最大 15 秒かかる場合があります。これにより、シェルフ ID プログラミングモードが

アクティブになります。



IDの点滅に15秒以上かかる場合は、シェルフIDボタンをもう一度押し続け、最後まで押しします。

c. シェルフIDボタンを押して放し、目的の0~9の数字になるまで番号を進めます。

各プレスおよびリリース時間は、1秒ほど短くすることができます。

1桁目の数字は点滅し続けます。

4. シェルフIDの2番目の番号を変更します。

a. デジタルディスプレイの2桁目の数字が点滅するまで、ボタンを押し続けます。

数字が点滅するまでに最大3秒かかる場合があります。

デジタルディスプレイの1桁目の数字の点滅が停止します。

a. シェルフIDボタンを押して放し、目的の0~9の数字になるまで番号を進めます。

2桁目の数字は点滅し続けます。

5. 目的の番号をロックし、2桁目の番号の点滅が止まるまでシェルフIDボタンを押し続けてプログラミングモードを終了します。

点滅が停止するまでに最大3秒かかる場合があります。

デジタルディスプレイの両方の数字が点滅し始め、約5秒後に黄色のLEDが点灯して、保留中のシェルフIDがまだ有効になっていないことを通知します。

6. シェルフIDを有効にするために、シェルフの電源を10秒以上再投入します。

a. シェルフの両方の電源装置から電源コードを抜きます。

b. 10秒待ちます。

c. 電源コードをシェルフの電源装置に再度接続して、電源を再投入します。

電源コードが接続されるとすぐに、電源装置の電源がオンになります。LEDが緑色に点灯します。

7. 左側のエンドキャップを取り付けます。

## 手順2：コントローラの電源をオンにする

シェルフの電源をオンにして一意のIDを割り当てたら、ストレージコントローラの電源をオンにします。

### 手順

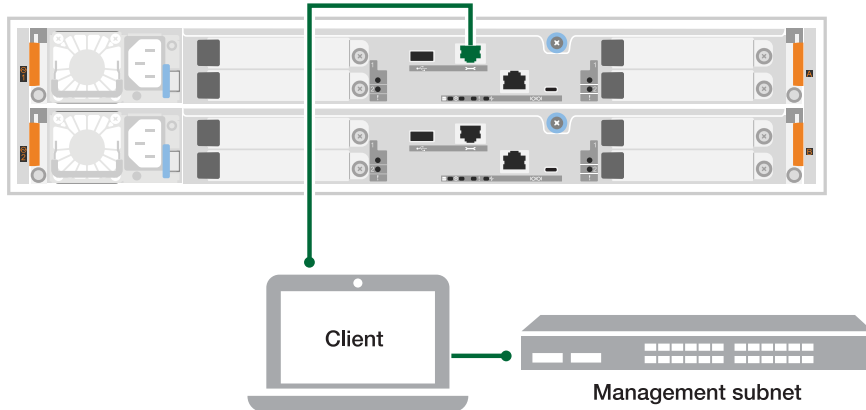
1. ラップトップをシリアルコンソールポートに接続します。これにより、コントローラの電源がオンになっているときのブートシーケンスを監視できます。

a. ラップトップのシリアルコンソールポートを115、200ボー（N-8-1）に設定します。

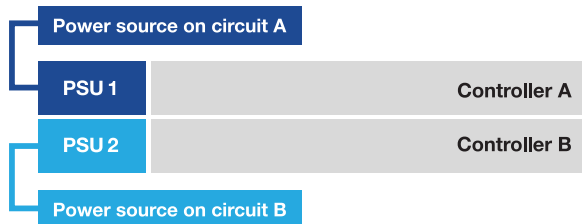


シリアルコンソールポートの設定手順については、ラップトップのオンラインヘルプを参照してください。

- b. ストレージシステムに付属のコンソールケーブルを使用して、コンソールケーブルの一端をラップトップに接続し、もう一端をコントローラAのシリアルコンソールポートに接続します。
- c. ラップトップを管理サブネット上のスイッチに接続します。



2. 管理サブネット上のTCP/IPアドレスを使用して、ラップトップに割り当てます。
3. 電源コードをコントローラの電源装置に接続し、さらに別の回路の電源に接続します。



- システムがブートを開始します。初回のブートには最大 8 分かかる場合があります。
  - LEDが点滅し、ファンが起動します。これは、コントローラの電源がオンになっていることを示します。
  - ファンは最初に起動するときに非常にうるさい場合があります。起動時のファンの異音は正常。
4. 各電源装置の固定装置を使用して、電源コードを固定します。

次の手順

ストレージ・システムの電源をオンにした後は、"[システムセットアップの完了](#)"

## ストレージシステムのセットアップと設定の完了 - AFF A20、AFF A30、AFF A50

ストレージシステムの電源をオンにすると、クラスタネットワークを検出してONTAPクラスタをセットアップできるようになります。

## 手順1：クラスタ情報を収集する

クラスタ管理インターフェイスのポートやIPアドレスなど、クラスタの設定に必要な情報を収集します（まだ収集していない場合）。

を使用し "[クラスタセットアップワークシート](#)" で、クラスタのセットアッププロセスで必要となる値を記録します。デフォルト値が指定されている場合は、その値を使用するか、独自の値を入力できます。

## 手順2：クラスタネットワークを検出する

検出プロセスでは、ネットワーク上のストレージシステムコントローラを検出できます。

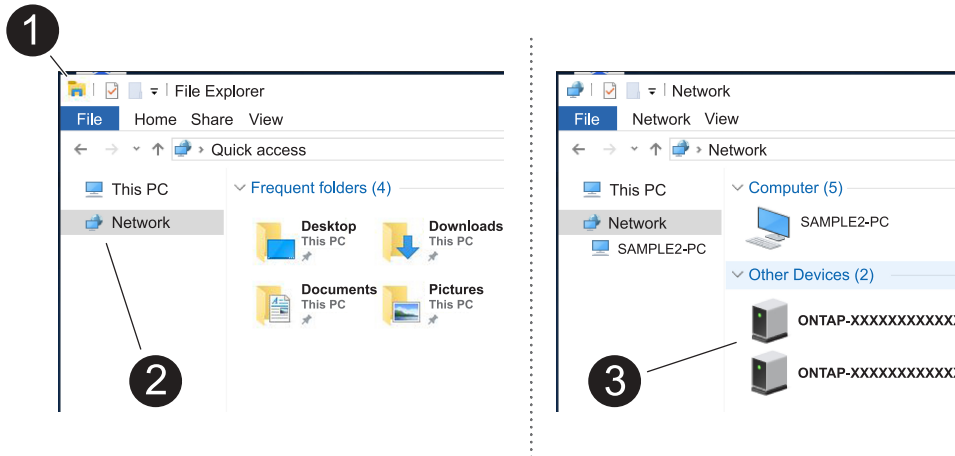


## オプション1：ネットワーク検出を有効にする

ラップトップでネットワーク検出を有効にしている場合は、クラスタの自動検出を使用してセットアップと設定を完了できます。

### 手順

1. ラップトップを管理スイッチに接続し、ネットワークコンピュータとデバイスにアクセスします。
2. 検出する ONTAP アイコンを選択します。



- a. エクスプローラを開きます。
- b. 左側のペインで\*をクリックし、右クリックして[更新]\*を選択します。
- c. いずれかの ONTAP アイコンをダブルクリックし、画面に表示された証明書を受け入れます。



XXXXXは、ターゲットノードのストレージシステムのシリアル番号です。

System Manager が開きます。

## オプション2：ネットワーク検出が有効になっていない

ラップトップでネットワーク検出が有効になっていない場合は、ONTAPコマンドラインインターフェイス (CLI) のクラスタセットアップウィザードを使用して設定とセットアップを完了します。

### 作業を開始する前に

ラップトップがシリアルコンソールポートに接続され、コントローラの電源がオンになっていることを確認します。手順については'を参照して "[ストレージ・システムの電源をオンにする](#)" ください

### 手順

いずれかのノードに初期ノード管理 IP アドレスを割り当てます。

管理ネットワークでの <b>DHCP</b> の状況	作業
を設定します	新しいコントローラに割り当てられた IP アドレスを記録します。

管理ネットワークでの DHCP の状況	作業
未設定	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="613 191 1442 258">1. PuTTY、ターミナルサーバ、または環境に対応した同等の機能を使用して、コンソールセッションを開きます。</li> </ol> <div data-bbox="678 325 735 384" style="display: inline-block; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 20px; height: 20px; text-align: center; line-height: 20px; margin-right: 10px;">i</div> <p data-bbox="797 306 1421 407">PuTTY の設定方法がわからない場合は、ラップトップまたはコンソールのオンラインヘルプを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="613 457 1162 487">2. 最初のノードのコンソールに接続します。</li> </ol> <p data-bbox="651 527 1427 590">ノードがブートし、クラスタセットアップウィザードがコンソール上で起動されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="613 632 1401 695">3. クラスタセットアップウィザードのプロンプトが表示されたら、ノードの管理IPアドレスを入力します。</li> </ol>

### 手順3：クラスタを構成する

NetAppでは、System Managerを使用して新しいクラスタをセットアップすることを推奨しています。セットアップ手順については、を参照してください ["System Managerを使用して新しいクラスタにONTAPを設定します"](#)。

System Managerでは、ノード管理IPアドレスの割り当て、クラスタの初期化、ローカル階層の作成、プロトコルの設定、接続されたストレージの初期プロビジョニングなど、クラスタのセットアップと設定のワークフローをシンプルかつ簡単に実行できます。

#### 次の手順

クラスタが初期化されたら、をダウンロードしてを実行し、 ["Active IQ Config Advisor"](#) セットアップを確認します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。